

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 7 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	職員が理念を理解し、理念をもとにした介護、支援を職員全員で共有できていない。	理念を理解し、利用者一人ひとりの持つ能力を理解し介護、支援を行う。それを管理者、職員全体で共有する。	申し送りの共有、カンファレンスをその都度行い状態に合わせたケアを実践する。	即時 12ヵ月
2	35	・災害に備えた備蓄が不十分である。 ・防災訓練に外部の参加者がいない。	・3日分の備蓄をし共有する。 ・地域の有識者、ホーム周辺の近隣住民の協力と呼び掛け防災訓練を実施する。	・リスト作成を行い置き場など職員間で共有する。 ・家族の参加、近隣住民へも参加を呼び掛け実践に生かせる防災訓練を行う。	12ヶ月
3	33	看取り支援後、本人や家族の思いに寄り添えたか、職員のメンタル面にも気遣いながら振り返る時間を作る。	利用者各々に対して終末期の意向確認を行い、その思いに沿った支援を実績を踏まえて最大限に行っていく。	新しいスタッフも増え、看取りを経験していないスタッフも多くいるためアクアでの看取り方針を職員間で共有し実践する。	12ヶ月
4	36	・言葉遣いの臨機応変な使い分けを行い距離の近い介、支援	人格を尊重した対応を行うことは前提とし、安心して過ごせるような丁寧な方言を取り入れ職員と利用者が良い距離感で過ごせるように努める。	職員が距離が近い場所にいる事で安心感を与えられる。丁寧な方言にどのようなものがあるか職員間で話し合い共有し実践する。	12ヶ月
5	2	・コロナウイルスの蔓延により地域の行事が延期、中止となり地域との付き合いが薄れている ・近隣住民が増え地域の一員としての意識をより持って挨拶などを行い	・運営推進会議にて地域の活動を把握し、参加できる行事や会議には積極的に参加する ・近隣住民との交流として挨拶を徹底することで顔なじみとなり地域の一員としての位置を定着させることが出来る。	・運営推進会議にて地域での情報収集を行い、地域とのつながりに意欲を示す。 ・職員一人ひとりが意識をもって近隣住民とのコミュニケーションに努める。	次回より

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。